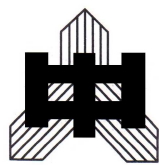


創立78周年

学校便り1月号



誠実 勉学 健康

ゆめ は え  
夢南風

令和7年1月25日発行  
鹿児島市立河頭中学校  
鹿児島市犬迫町1168  
Tel 099-238-2663

生徒数 合計83名  
1年23名, 2年32名, 3年28名

「感謝と希望に満ちた春が来ますように」

校長 淵脇 広智

3学期が始まり、1月も残すところわずかとなりました。今年1年が生徒、保護者及び地域のみなさま方にとって健康で幸多き年でありますことを心からお祈り申し上げます。

さて、今年の干支はへび年です。「十干十二支（じっかんじゅうにし）」では、乙巳（きのと・み）に当たるそうです。乙（きのと）には、困難があっても 紆余曲折しながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表し、へびは脱皮を繰り返しながら成長することから再生と変化を意味しています。これは、私たちが新しいことに挑戦し、成長する姿と重なります。生徒の皆さんには、この3学期を通じて、自分自身を脱皮させ、新しい自分を見つける機会にしてほしいと思います。



また、へびは非常に観察力が鋭く、周囲の変化に敏感です。予測困難な変動の激しい時代だと言われていますが、学校生活や学びの中で周囲の変化や新しい情報に敏感になり、自分の成長に役立ててほしいです。そして、へびは忍耐強く、目標に向かってじっくりと進む姿勢をもっています。この3学期、自分の目標に向かって一步一步進んでいくことを忘れないでほしいです。

みなさんにとって大事なことは、今年は去年のままの自分であってはならないということだろうと思います。1年生は、2年生に。2年生は3年生に。3年生は、卒業して「自分探しの旅」へと巣立っていきます。そのために今やらなければならないことをただ粛々と（コツコツ）と実行するだけのことです。なぜ勉強をするのか？それは、社会の中で自分らしく生きることができる存在になっていかなければならないからです。

3年生は、いよいよ高校入試が始まります。旅立ちまであと少しです。感謝と希望に満ちた春が来るよう、学級一丸となって受験を乗り切ってほしいと思います。

2年生は、2月3日立春の頃に、「立志」を迎えます。2年生にとって、この3学期は3年生への出発の時でもあります。そのことを意識して文武両道頑張ってください。

1年生は、中学校生活にも慣れて、本当に素直に、一生懸命頑張っている。新入生の手本となれるように3学期はもっと自分を高めていってほしいです。

未来とは、自分で想像するものではなく自分で可能にするものです。3学期は、それぞれの学年が次のステージに上がることを常に意識して、充実した学校生活を送ってくれることを期待しています。保護者・地域のみなさま方におかれましても引き続き、本校の生徒たちを見守り、励ましていただきますようよろしくお願いいたします。



の主な行事

- 6日(木) 学年末テスト前部活動中止(～14日)
- 7日(金) 夢南風(1・2年)⑤⑥
- 8日(土) 土曜授業 河頭地区地域芸能発表会(1年)
- 11日(火) 建国記念の日
- 12日(水) 学年末テスト②③④※給食後下校
- 13日(木) 学年末テスト②③④※給食後下校
- 14日(金) 学年末テスト②③④※給食後下校/部活動中止
- 19日(水) 校外学習(2年)⑤⑥
- 21日(金) 夢南風(2・3年)⑤⑥
- 24日(月) 振替休日
- 28日(金) 授業参観⑤ 学年末・地区PTA

## 第58回鹿児島市小・中学校図工・美術学習発表展

本年度も「第58回鹿児島市小・中学校図工・美術学習発表展」が市立美術館で開催されます。この展示会はコンクールではなく、市内の小・中学校の児童・生徒が図画工作・美術の時間につくった作品を展示します。絵画、彫刻、デザイン、工芸などの作品が、どのような指導や学習過程を経てつくられたのかということを理解していただくためのものです。ぜひこの機会にご覧ください。

- ◎期間 令和7年1月22日(水)～31日(金)  
※1月27日(月)は休館日
- ◎時間 午前9時30分～午後6時  
※1月31日(金)は午後3時まで
- ◎場所 鹿児島市立美術館1階  
※入場料無料



## 自らの経験を語らず…

プロ野球千葉ロッテマリーンズの吉井監督は、若い選手への指導法について「自分の経験を語らないことを意識している」と述べています。

「私自身が選手時代も、監督やコーチ、先輩の経験談の押しつけほど退屈なものではなかった。できるだけ若い選手の口から言葉が出るように仕向けていく必要がある」として、選手自身が課題に気付くための質問を多く投げかけるようにしているそうです。

このアプローチはスポーツの世界に限らず多くの場面で重要と言えるのではないのでしょうか。上司や先輩と呼ばれる人が自身の経験を基に、部下や後輩を指導することは多々あります。しかし、指導される側からすると、上司や先輩の経験は時代背景や状況が異なるために理解しにくい場合もあります。指導する立場の人は、まず部下や後輩と積極的にコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築くことが大切です。さらに部下や後輩が臆さずに意見を言える環境を作るためには、丁寧な「傾聴」しかありません。

学校や家庭において、子どもが主体的に考え、行動できるようになるためには、大人の経験の押し付けや好き嫌いの評価は良くありません。これからの大人は、これらのことを意識的に指導にあたるのが大切なのかもしれませんね。